

4 財政状況

1 財政の概況

平成30年度は、平成28年4月に策定した「北九州市上下水道事業中期経営計画」(H28～R2)に基づき、着実に事業を実施することで、下水道使用料の適正な賦課徴収により収入の確保を図るとともに、改築・更新時に併せた高効率機器の導入などによる維持管理コストの削減に努めた。

財政面では、単年度資金収支は、6,972万円の黒字となり、累積では27億8,695万円の資金剰余を確保し、引き続き安定経営を維持している。

2 財政のしくみ

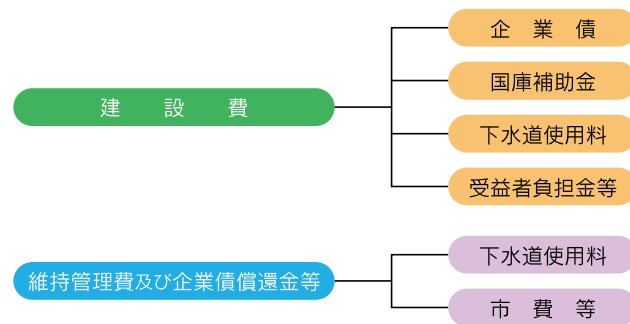
下水道事業の経費は、建設費、維持管理費及び企業債償還金等に分けられ、その財源は次のとおりである。

(1) 建設費

下水道施設を建設・更新するには、たくさんのお金がかかる。平成30年度の下水道建設費は約129億円であった。その建設資金の大部分は国庫補助金や長期借入金(企業債)をあてている。企業債を発行して資金を調達することは、

- 単年度で多くの事業ができ、市民が下水道施設の整備を待つ時間が短縮され行政サービスが促進されること。
- 下水道施設は50年以上の長期間利用される施設なので、建設費を世代間で負担することが公平であること。

等のメリットがある。



(2) 維持管理費

下水道施設は、市民生活の安全確保や環境保全の観点から、適切な維持管理が必要である。その経費として、下水管の補修費、ポンプ場や浄化センターの運転費用等がある。

平成30年度は、電気代、薬品費、修繕費、人件費などで1年間に約68億円かかった。1日当たり約1,863万円かかった計算になる。

事業費	下水道建設費	維持管理費	合計
平成30年度	約129億円	約68億円	約197億円

【収益的収支と資本的収支】

○収益的収支

公営企業の経営活動に伴って発生する収益と費用の収支状況をあらわす。主なものは下水管・ポンプ場・浄化センターの維持管理費や減価償却費、施設建設のために借り入れた企業債の支払利息である。

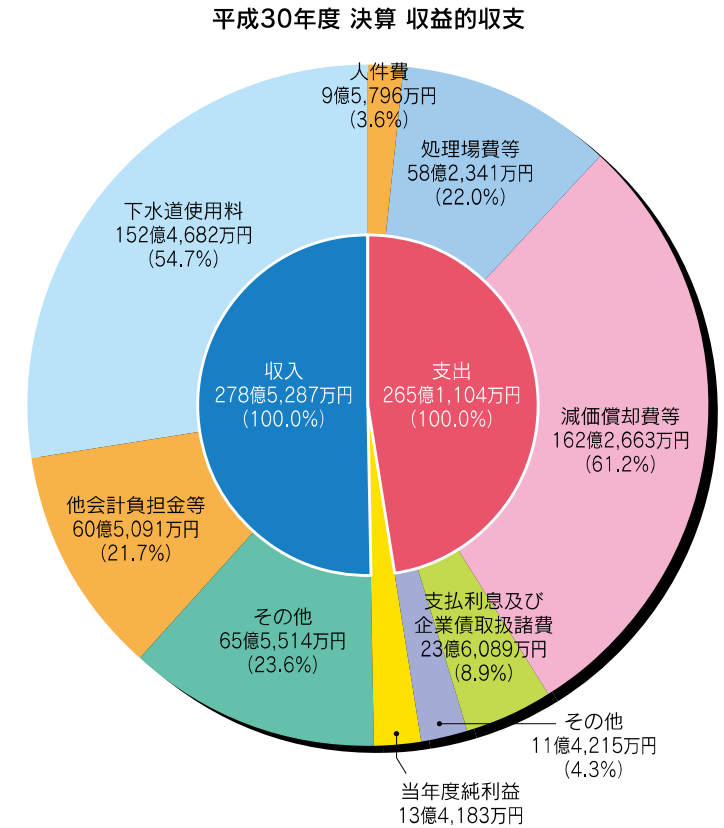
○資本的収支

サービスの継続的提供を維持発展させるため、将来の経営活動に備えて行う建設改良や企業債元金償還などの収支状況をあらわす。主なものは、普及促進・浸水対策・合流改善・改築更新費等の事業に要する経費と企業債元金償還金である。

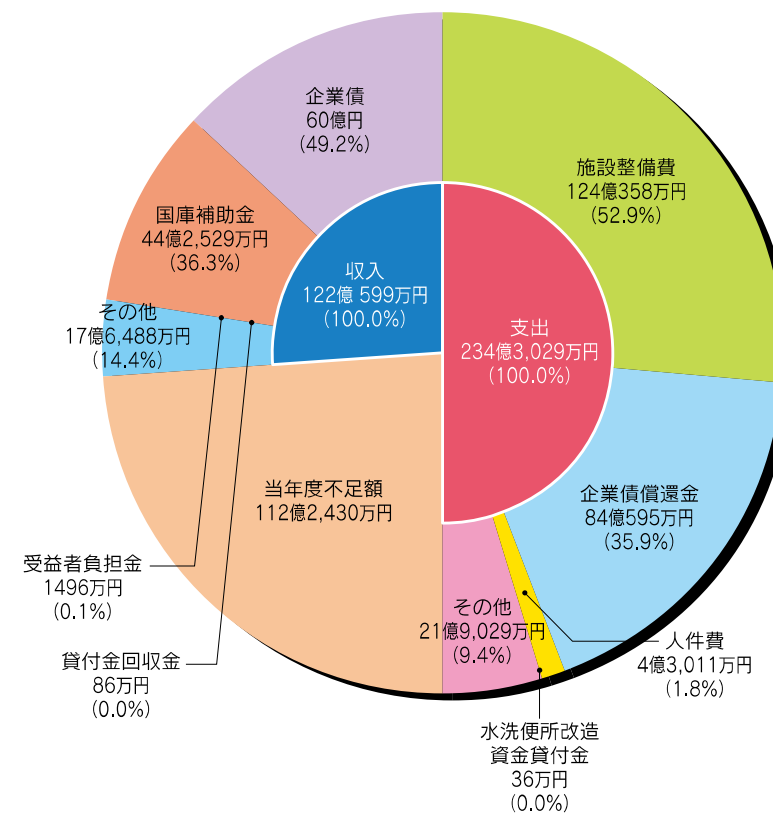
3 平成30年度決算(税込)

(1) 収益的収支

収入は営業収益216億4,628万円(うち料金収入152億4,682万円)、営業外収益61億9,630万円、特別利益1,029万円で総額278億5,287万円となり、支出は営業費用239億3,430万円、営業外費用25億7,452万円、特別損失222万円で総額265億1,104万円となった。この結果、平成30年度は13億4,183万円の利益が生じた。



平成30年度 決算 資本的収支



(2) 資本的収支

収入は、企業債60億円、国庫補助金44億2,529万円などで、総額122億599万円となり、支出は施設整備費124億358万円、企業債償還金84億595万円などで総額234億3,029万円となり、収支差引では112億2,430万円の不足となった。

(3) 資金収支

資本的収支による資本不足額112億2,430万円を損益勘定留保資金等で補った結果、単年度資金収支は6,972万円のプラスとなり、平成30年度末の累積資金剰余は27億8,695万円を確保した。